

令和4年度 第1回 浜松市立瑞穂小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和4年5月13日（金） 14時30分～16時10分
- 2 開催場所 瑞穂小学校 パソコン室
- 3 出席委員 藤原 四郎（学校支援コーディネーター）、藤島 治、伊藤 雅文
佐々木 美香、清水 淳子、伊藤 文雄、笠原 剛
- 4 欠席委員 見野 佐枝子
- 5 オブザーバー 佐藤 拓男、安井 直幸（北部協働センター）
- 6 学 校 柳瀬 美穂（校長）、鈴木 彰一（教頭）、中西 伸（CS担当教職員）
飯田 千鶴（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項
 - （1）会長の選出及び副会長の指名について
 - （2）議長の選出について
 - （3）瑞穂小学校 運営基本方針について
 - （4）夢育やらまいか事業 CS 加算分に対する意見書について
- 10 会議録作成者 CSディレクター 飯田 千鶴

11 会議記録

司会の教頭から、委員総数8人のうち7人の出席があり過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。また、別紙資料に基づき、浜松市学校運営協議会規則、同自己評価実施要項について説明があった。

（1）会長の選出及び副会長の指名について

教頭より、会長の選出について委員に意見を求めたところ、藤原委員から伊藤雅文委員を会長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。また、その後、会長に選任された伊藤雅文委員が、佐々木委員を副会長に指名し、全員異議なくこれを承認した。

（2）議長の選出について

教頭より議長の選出について委員に意見を求めたところ、藤原委員から立候補する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

（3）瑞穂小学校 運営基本方針について

議長の指示により、校長から別紙資料に基づき、学校運営基本方針について説明があった。

要点は以下の通りである。

学校教育目標「自分らしさを輝かせる子」の育成について

現在、本校には約15%の外国人児童（外国にルーツのある児童を含む）が在籍しており、日本人児童と共に、お互い尊重し合いながら、学校生活を送っている。

本校では、児童一人一人が自分らしさを各々で輝かせ、お互いを尊重し合える子（多様性と繋がり）の育成が重要であると考えており、そのことが学校教育目標に表れている。

また、児童には「①知、②徳、③体」のバランスが取れた人間力を養ってほしいと考え、以下の3つの合い言葉に基づき、その育成に取り組んでいく。

① ひとみキラキラプラン（確かな学力）

現在、児童一人に一台ずつのタブレット型端末を配布し、授業等で積極的に活用している。同時に、対面でもお互いに意見を伝え、交流し合う学習方法も大切にしている。

なお、次回の協議会では、委員の方たちに、児童がタブレット学習に取り組んでいる様子を参観していただく。

また、高学年には教科担任制を導入している。これにより、教員の専門性を活かした魅力ある授業ができ、子どもたちの確かな学力が向上し、同時にこのことが教員の働き方改革にも繋がっていると考えます。

② こころほのぼのプラン（豊かな心）

本校には、現在、発達支援学級が7学級あり、38名の児童が在籍している。一人一人にあった個別支援計画を立て、通常学級の児童との交流も深めながら、発達支援教育の充実を図っていく。

たてわり活動を通し、異学年間の交流を充実させ、心の繋がりを大切にしていく。併せてキャリア教育（社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくための教育）にも力を入れ「キャリア教育だより」を発行する。特に、行事等の特別活動を要とし、児童が自分の目標に向かって努力する過程を大切にしていく。

③ げんきモリモリプラン（健やかな体）

新型コロナウイルスの影響から、児童の体力低下が懸念される。今後は、運動会や持久走大会等を通じ、みんなで体を動かすことの楽しさを感じながら、児童が各々の目標に向かって頑張っていく過程を大切にしていきたい。

また、運動会（5月28日開催予定）は、感染症対策の観点から昨年度同様に、学年ごとに開始時刻をずらして実施する。ただし、教室に戻ってからも、他学年の様子をリモートで見ることができるようにし、学校全体で取り組む一体感は味合わせたい。

なお、今後の行事等については、感染状況を確認しつつ、開催方法を工夫する。

最後に校長より、学校は、保護者や地域の方たちに開かれた存在である旨、説明があった。また、今後コミュニティ・スクールに関することや、本協議会で熟議した内容は、必ず教職員に伝え、運営方針に繋げていく旨、併せて説明された。

委員からは、以下の発言等があった。

- ◆児童が、十分に理解をしていない状態で、テストを実施することに疑問を感じる。児童が好きな教科であっても、テストの点数が低い場合、その教科への学習意欲が低下するのではないか。また、児童のゲーム時間が増え、睡眠時間が削られるため、生活の乱れや視力の低下が心配である。学校のタブレットを自宅で使用した際、使用時間の設定が難しかったように感じた。(笠原委員)
- ◆児童は、学校外でも元気に体を動かしているように感じる。2～3年前に比べ、本年度の1年生は素直で落ち着いている。児童と接していると、学校で教えていることが、しっかりと児童に伝わっていることが分かる。(伊藤文雄委員)
- ◆以前出席した卒業式では、卒業生が自分の夢をしっかりと発表していて、感心した。ただし、学校側から児童に対し、無理に「自分らしさ」を求めることには、配慮が必要ではないか。(伊藤会長)

【質問】

- ・タブレットを使用した授業とは、どのようなものか。先生方の感想等を聞きたい。
(清水委員)

【回答】

- ・タブレットを使用することで、児童は、各自で調べ学習に取り組むことができる。また、児童は自分の意見等を入力し、送信できるので、教員は瞬時に個々の意見を集約できる。発表が苦手な児童でも、タブレットを使用することで、自分の意見を伝えることもできる。タブレットの導入により、児童の学習意欲が向上し、理解が一層深まると考える。(CS担当教職員)
- ・タブレット学習には、児童が得る情報量が増すという利点がある。タブレット学習と対面型授業(言葉を交わす授業)を両立することが望ましい。また、文科省の方針により、今後、従来の紙の教科書から、デジタル教科書へと移行していくことも考えられる。(校長)

【質問】

- ・瑞穂小でスマホを所有している児童はどの程度いるのか。SNS等への書き込み等、いじめに繋がらないか心配である。(伊藤会長)

【回答】

- ・児童は、学校にスマホを持ち込むことはできない。ただし、家庭の事情により、キッズ携帯等を持参する児童には、登校後、職員室に預けるように指導している。
(教頭)

- ・本校では、4年生以上の児童を対象に「情報モラル講座」を実施し、情報を扱う際のルールやマナーについて指導をしている。スマホを所有している高学年児童は多少いるが、書き込みトラブルについては、スマホよりもゲーム機を使用したケースの方が見受けられる。(CS担当教職員)
- ・相手の立場に立って考える「モラル教育」の実施が、より重要となってくる。(校長)

◆大人よりも、子どもたちの方がタブレットやゲーム機の操作に詳しい。
(佐々木副会長)

◆ゲーム機の見守り設定を利用した方が良い。(笠原委員)

【質問】

- ・瑞穂小で新型コロナワクチンを接種した児童はどの程度いるか。(笠原委員)

【回答】

- ・未接種児童への偏見に繋がるため、学校では接種の有無の確認はしていない。
(教頭)

◆本来、子どもを守るのは親の責任である。ワクチン接種については、各家庭で話し合っ
て決めるべき。家庭で考えることと、学校で教えることを区別すべきである。
(伊藤文雄委員)

◆児童をたくさん褒めてあげてほしい。褒めることが、児童のやる気に繋がるのでは
ないか。(藤島委員)

協議の結果、全員異議なく運営方針を承認した。

(4) 夢育やらまいか事業 CS 加算分に対する意見書について

議長の指示により、教頭より別紙資料に基づき、夢育やらまいか事業予算について、説明があった。その上で、本校ボランティア団体「花の会」の活動における、必要物品等の購入に関し、同事業予算から算出していただきたく、学校運営協議会として意見書を提出したい旨の提案がされた。この件について、以下の質問、回答があった。

【質問】

- ・花の会の活動には、児童も参加しているのか。(伊藤会長)

【回答】

- ・園芸委員の児童が参加する場合もあるが、大半の活動は保護者等のボランティアの方たちが行っている。(教頭)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

その他報告事項等

司会の教頭より、別紙資料に基づき、次回以降の協議会開催日時について説明があった。
次回は、7月8日（金）14：30からパソコン室で開催し、前半は委員の方たちに、タブレットを使用した授業を参観していただく。
また、各回の熟議テーマについては今後、変更する場合もある旨、併せて説明があった。

以上